

第641回 新潟放送番組審議会 議事録

— 議題 —

テレビ番組

日本のチカラ「新潟・食の実験レストラン ～めざせ！美食の街～」
(2018年10月7日(日) 午前5時45分～午前6時45分 放送)



平成 30 年 10 月 24 日

BSN新潟放送

第641回新潟放送番組審議会

1. 開催日時 平成30年10月24日(水) 午前11:00～

2. 開催場所 新潟市中央区 新潟放送 6F

3. 委員の出席

○委員側出席者 (敬称略・順不同)

委員長	古賀 豊	委員	池田 幸博
委員	服部 誠司	委員	小島 良子
委員	高木 言芳	委員	渡邊 信子
委員	石坂 智恵美		

○委員側欠席者 (敬称略・順不同)

副委員長	佐藤 元	委員	細田 康
委員	小原 清文		

○放送事業者側出席者

社長	佐藤 隆夫	放送本部長	小原 弘志
営業本部長	金田 博幸	編成局長	増山 由美子
情報センター長	丹羽 崇		

<説明員> テレビ制作部長 井上 智美

事務局 阿部 基行 (放送本部 テレビ編成部長)

4. 議題

- 1 報告事項
 - ・「青少年に見てもらいたい番組」、番組種別公表制度に基づく「放送番組の種別と種別毎の放送時間」の報告(4月～9月)
 - ・11月の単発番組について(各局長)

- 2 審議番組
 - テレビ番組
 - 日本のチカラ「新潟・食の実験レストラン ～めざせ! 美食の街～」(2018年10月7日(日) 午前5時45分～午前6時45分 放送)

5. 議事の概要

編成局長から「青少年に見てもらいたい番組」・「放送番組種別と種別毎の放送時間」報告と各局長からの2018年11月度番組報告に続いて、テレビ番組「日本のチカラ『新潟・食の実験レストラン ～めざせ！美食の街～』」（10月7日放送分）について審議が行われた。

～番組審議委員の主な意見・質問～

- わかりやすい構成だった。
- 見た目が悪い野菜を使っていたが、インスタ映えする料理が並び食の文化を楽しむことが出来た。
- 食を通じて新潟の良さを全国に伝える良い番組だと思う。
- 生産者・料理人・消費者をちゃんと繋げていた。
- シェフの本拠地である古町の古民家レストランはこれからの新潟を考える上で大事なスポット。そうした中で、どうして古町だったと言う部分を掘り下げて欲しかった。そうすれば、食の文化やストーリーなどに深みが出たと思う。
- 新潟には素晴らしい文化や食材などがあるので、どんどん取り上げて全国に広めて欲しい。
- やりがいを持って仕事をしている若者たちを見て元気をもらった。取材を継続して、その後のシェフの姿を放送して欲しい。
- タイトルの中にある実験の文字をみてワクワクして視聴したが、何が実験なのか分からず時間がかかった。シェフが挑戦する事が実験だったと言うことに直結しなかった。
- 視聴していて何で？と思う部分があった。シェフと奥さんや家族とのつながり。また人との関わりなどでチャンスが生まれると思うが、海外に行くチャンスが何だったのか分からなかった。そして、人を描いているのかレストランバスの取り組みを紹介しているのか分かりづらかった。
- 始まってすぐにどのような視点で視聴して良いのか分からなかった。シェフの取り組みの評価なら報告的な番組作りだった。最後の言葉の部分は想定内で、若い人頑張ってねって思った。
- 良い話だと思ったが、強烈な印象は残らなかった。ワクワク感が感じられず「こんなことがありました。」で終わっていた。
- 説明不足で伝わらない部分があった。もう少し時間があれば、まとまった番組になっていたと思う。

～新潟放送 テレビ制作部 井上智美プロデューサーから～

- 貴重なご意見を頂き、ありがとうございます。今回のテーマは2年前から取材を始めていて、スペインの視察に2回同行取材をしていました。その時点で主人公の若手シェフは視察団の1人で、取材中にシェフにスポットを当てる事にしました。若手シェフを主役にする事で、食や食材などへの取り組みを分かりやすくしようと思いまし

た。タイトルの中の実験という言葉はシェフの使っていた言葉で、ディレクターがそれに共感してシェフを主役にして描く場合はふさわしいと思いタイトルに使いました。部員には何を伝えたいのか常に問いかけています。今回、十分でなかった部分は課題として取り組んでいきたいと思います。ご指摘を参考に、今後の番組作りに役立てていきたいと思います。本日はありがとうございました。

【文責・番組審議会事務局】
